

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 36 人

② 算数 36 人

5 留意事項

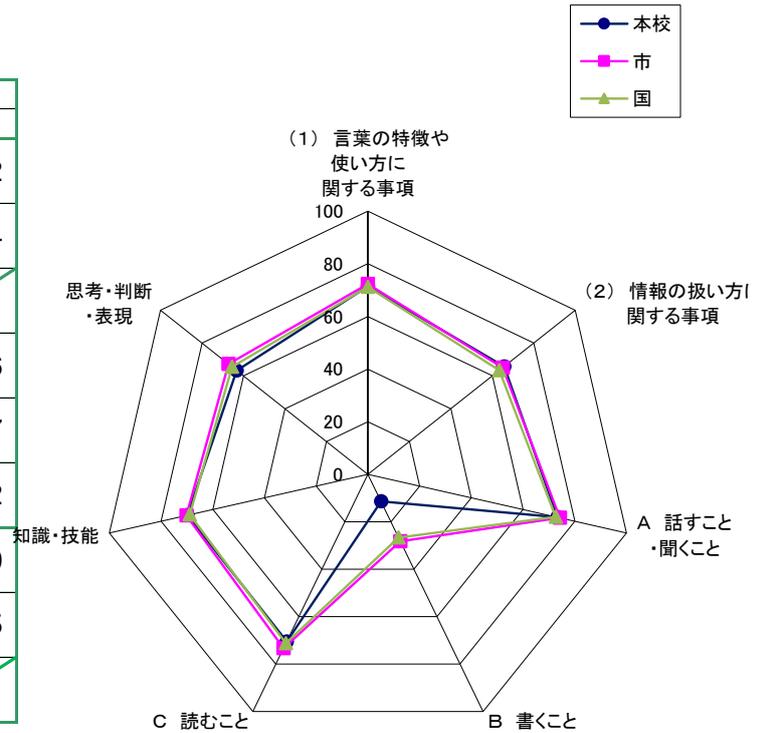
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.4	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	65.7	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	73.3	74.2	72.6
	B 書くこと	11.4	28.2	26.7
	C 読むこと	70.5	73.3	71.2
観点	知識・技能	69.8	70.2	68.9
	思考・判断・表現	63.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

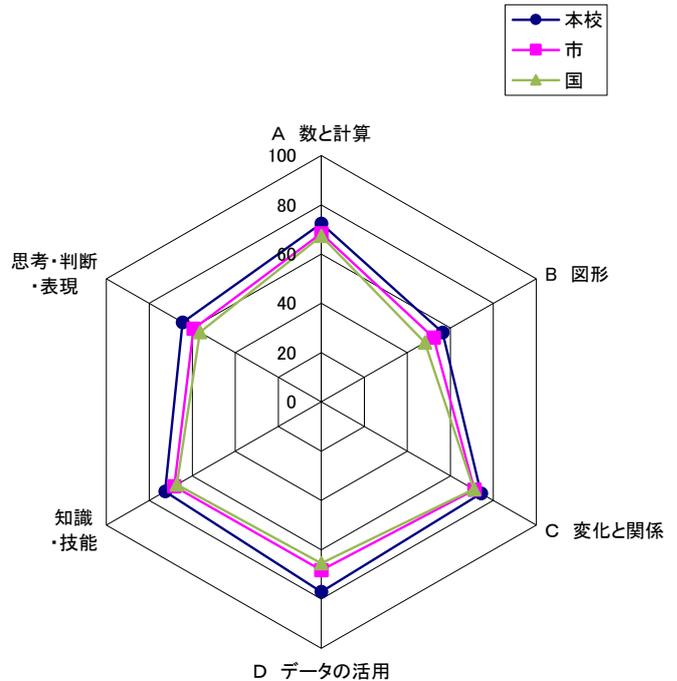
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。 ○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う設問の正答率は97.1%で、国の平均を4.0ポイント上回っている。 ●文章の種類とその特徴についての理解を問う設問の正答率は74.3%で、国の平均を5.5ポイント下回っている。</p>	<p>・漢字の学習では、読み書きだけでなく、文の中での正しい使い方を意識させた指導を継続していく。 ・日常生活であまり使わない言葉については、漢字を使った短文作りなどに取り組み、定着を図る。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。 ○原因と結果など情報と情報との関係を捉える設問の正答率は68.6%で、国の平均を3.9ポイント上回っている。</p>	<p>・自分の考えを整理する際、思考ツールやICTを活用することで、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようになってきていると思われるので、今後も思考ツールやICTを活用していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。 ○【インタビューの様子】で、質問した理由として適切なものを選ぶ設問では、「相手の話の内容をより具体的に知るため」の正答率は82.9%で、国の平均を8.9ポイント上回っている。 ●【インタビューの様子】で、質問した理由として適切なものを選ぶ設問では、「自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため」の正答率は65.7%で、国の平均を7.9ポイント下回っている。</p>	<p>・ペアで互いにスピーチをしたり質問をしたりする活動を続けていることにより、必要なことを質問しながら聞くことができるようになってきているので、今後もペアスピーチを続けていく。 ・自分の理解が正しいかどうか確認しながら聞くことに慣れていないので、話し合い活動の中で、相手の話す内容を自分の言葉に置き換えて確認する経験をさせていきたい。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、国の平均を下回っている。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問の正答率は11.4%で国の平均を15.3ポイント下回っている。特に無回答児童の割合が11.4%で全国を7.1ポイント下回っている。</p>	<p>・国語をはじめ社会や理科でも図や表などから読み取ったことを文章で書けるように例文を示しながら指導していく。 ・日記指導だけではなく行事等様々な場面で、自分の考えや立場を明らかにして表現する機会を増やし、文章表現のスキルを高めていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する設問の正答率は91.4%で全国平均より1.4ポイント上回っている。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける設問の正答率は71.4%で全国平均より4.0ポイント上回っている。</p>	<p>・様々な分野の本に親しむことができるよう図書館司書と連携し読書活動を推奨したことにより読解力が高まっていると考えられるので、さらに継続して充実した読書体験をさせていきたい。 ・説明文を読む際には複数の文章の中から情報を整理し、内容を捉え、考えをまとめられるよう指導していく。</p>

宇都宮市立田原西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.4	68.4	67.3
	B 図形	56.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	74.3	71.2	70.9
	D データの活用	77.1	68.3	65.5
観点	知識・技能	72.7	68.4	67.2
	思考・判断・表現	64.5	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。</p> <p>○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える設問の正答率は65.7%で、国の平均を18.1ポイント上回っている。</p> <p>●()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る設問の正答率は65.7%で、国の平均を4.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や家庭学習に計算練習を位置づけて、加法、減法、乗法、除法、()の交じった計算のきまりを再度確認し、正しい順序で計算できるようにする。 文章問題に繰り返し取り組ませることで、問われていることを文章から正しく読み取り、立式する力を身に付けていく。
B 図形	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。</p> <p>○正方形の意味や性質について答える設問の正答率は91.4%で、国の平均を4.2ポイント上回っている。</p> <p>●正三角形の意味や性質について答える設問では、国の平均を0.8ポイント上回っているが、正答率は25.7%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の観察や構成などの活動を行う際は、直線の平行や垂直の関係と、図形を構成する要素(辺、角)を関連付け、図形の性質について考察する場面を設けていく。 図形を構成する(かく、折る、切るなど)活動の際には、既習の図形との関連を捉えたり、構成要素に着目して説明したりする場面を大切にしておく。
C 変化と関係	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。</p> <p>○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、知りたい数を求める設問の正答率は94.3%で、国の平均を0.8ポイント上回っている。</p> <p>●百分率で表された割合について答える設問では、国の平均を8.3ポイント上回っているが、正答率は54.3%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量の表を読み取る際には、縦や横に見たり、加法や乗法の関係になっているか考えたりする時間を十分に設けていく。 割合の意味を十分理解させるとともに、日常的に割合に触れる機会を設けることで、習熟を図る。
D データの活用	<p>平均正答率は、国の平均を上回っている。</p> <p>○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する設問の正答率は、74.3%で、国の平均を18.1ポイント上回っている。</p> <p>●「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る設問の正答率は82.9%で、国の平均を上回っているが、無解答率が8.6%と高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表の中の数値がどんな意味をもつのか、問題文から読み取れることを整理したり、書き込んだりして理解が深められるように引き続き指導する。 興味・関心や問題意識に基づき、問題を設定したり、目的に応じてデータを収集したりしていく。また、表やグラフに表したり読んだりしたことから、自分の考えをもつ場面を大切にしておく。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、良いところがあると思いますか」に対する肯定的割合が、国の平均を8.2ポイントも上回っている。普段から教師が児童に対して、1人1人のよさを認める指導を行い、自己肯定感を高めることができるような声掛けを意識的に行っている効果が表れている。

○「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的割合が、国の平均を13.0ポイントも上回っている。総合的な学習の時間等におけるキャリア教育の効果が表れていると考えられる。

○「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的割合が、国の平均を14.8ポイントも上回っている。学校の規模も小さいことから、学校全体で子供たちの指導や支援を行っていることや、担任以外の職員にも気軽に相談できる雰囲気があることが影響していると思われる。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対する肯定的割合が、国の平均を9.6ポイント上回っている。本校の研究主題である、「自らの思いを表出し、学び合う楽しさを味わう児童の育成」のために行っている様々な取組の効果が表れていると思われる。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する肯定的割合が、国の平均を4.0ポイント下回っている。学校で学習した内容を宿題や自主学習として家庭で学習する時間がしっかりと確保できるよう、家庭学習の習慣化を図るための啓発を続けていく必要がある。中学校進学に向け、学習の習慣化を図ってきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの思いを表出し、学び合う楽しさを味わう児童を育成する。 ・家庭学習の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末や思考ツールを活用して思考の可視化を図り、自分の考えを明確にして話し合いができるよう取り組んでいる。 ・年度始めに家庭学習メニューを配付し、学習ノートの秀作を掲示したり、家庭学習強化習慣を年4回実施したりして、家庭への啓発を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的割合が、国の平均より9.8ポイント高い。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的割合が国より4.0ポイントも低い。また、平日の家庭学習の時間も、国の平均より7.0ポイントも低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数において記述式の問題の正答率が国の平均を下回っており、自分の考えをまとめ、文章で表現することが苦手な児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科において、感想や振り返りだけでなく、分かったことや自分の考えなどを記述する場を意図的に設け、思いを言語化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取し、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・振り返りやまとめを書く際に、必要な学習用語や文字数などの条件を整えて書く場を設ける。